

【入院診療のご案内】



分娩の基本的な考え方

自然分娩、経膣分娩を行うことを基本とします。

妊娠分娩経過に応じて分娩誘発・促進を行います。経膣分娩を予定していても帝王切開を選択することもあります。高血圧の重症化や合併症発症前に妊娠を安全な形で終了します。お母さんや赤ちゃんの安全のため、高次医療機関に搬送することもあります。

高次医療機関は名古屋大学病院、名古屋市立大学病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、聖霊病院、名古屋市立西部医療センター、愛知医科大学病院などと連携しています。

母体疲労や血圧コントロールなどで麻酔下の分娩（無痛分娩）を行うことがあります。妊娠中からパースプランをしっかり立てて、状況に応じてよりよい分娩を行うことが重要と考えています

正常経膣分娩の入院期間は 初産婦 産後 5 日入院、経産婦 産後 4 日入院です。帝王切開術は保険診療で、産後 6 日入院です。分娩予約金は 10 万円です。

【無痛分娩】

当院の分娩への基本姿勢は自然分娩です。陣痛の痛みやストレスは多くの場合、呼吸法やリラックスで軽くするようにしますが、それも限界があります。痛みをとることで分娩に対する不安が軽減され、リラックスし（安心）、本来持つ産む力を発揮しやすくなります。**母体疲労や血圧コントロールなどで麻酔下の分娩（無痛分娩）を行うことがあります。**

無痛分娩は硬膜外麻酔にて行います。他に局所麻酔薬を用いた陰部神経ブロックを行い

ます。当院では麻酔科医の指導の下、安全を重視し、以下のことに従って無痛分娩を行います。詳細は、院長または副院長からご説明いたします。

1. インフォームドコンセント

(ア) 「出産に関わる麻酔についての説明」等を参考に、患者様への説明を行います。妊娠 30 週ごろにバースプラン作成の中で行います。

(イ) 当院は完全な無痛を目指しているのではなく、痛みの軽減が目標としています。

(ウ) 生じうる合併症としては、頭痛、背部痛、出血、感染、神経損傷（お産が原因のこともある）です。

(エ) 麻酔導入時は局所麻酔薬中毒やくも膜下誤注入に備えて絶食です。少量分割注入で重篤な結果を回避してゆきますのでご安心下さい。食事は前日就寝まで可能です。無痛分娩中は緊急帝王切開移行の可能性を考慮し、食事制限があります。水分摂取に関しては、水であれば、硬膜外無痛分娩中も摂取できます。

(オ) 無痛分娩時、特に開始直後 1 時間ぐらいに胎児心拍異常が発生することがあります。

(カ) 陣痛微弱による分娩促進剤の使用、分娩 2 期遷延による鉗子・吸引分娩術の必要性が高くなります。

(キ) 同意書は麻酔、産科手術（帝王切開、鉗子・吸引分娩術）、麻薬等の同意書を作成します。可能なかぎり、説明はバースプラン時に行い、分娩開始前に作成します。

2. 無痛分娩の方法

硬膜外麻酔とは、脊髄の外側の硬膜外腔という箇所にカテーテル（細くて柔らかい管）を留置し、その管を通して麻酔薬を入れ、お産の痛みを和らげる方法です。無痛分娩の処置は 10 分程度で終了します。

ベッドに横になっていただき、背中を丸めた姿勢でカテーテルを挿入します。背中に局所麻酔をしてから針を刺してカテーテルを挿入しますので、カテーテル挿入時に痛みはありません。カテーテルを挿入した後は姿勢に制限はありませんので、立ったり座ったり仰向けに寝たり、どんな姿勢でも問題ありません。

無痛分娩では、子宮収縮に伴う軽い陣痛は感じますが、痛みはなく子宮口が全開したら普通の分娩と同様に『いきみ』を行い出産します。自分の力でいきんで産むという点においては、自然分娩と変わりません。

麻酔の効果や陣痛の感じ方には個人差がありますが、薬の注入量、注入方法を工夫することによって分娩に伴う痛みの大部分を軽減できます。麻酔薬はおもに子宮より下の痛みを取り除きますので、意識ははっきりしています。足は少し重い感じがしますが動かすことはできます。（個人差が若干あります。）麻酔薬注入後約 10 分から 15 分くらいしてから麻酔は効き始めます。無痛分娩では、陣痛が間延びすることがあるので、遷延分娩を回避する目的で陣痛促進剤を使用します。使用する薬剤に関しましては、胎児に影響がないものを適切に使用いたします。

吸引分娩や鉗子分娩は増える傾向にありますが、帝王切開率は増加しません。分娩室ではできる限り自由な姿勢で過ごしていただきます。出生した赤ちゃんについては他の分娩と同様、分娩直後の抱っこを行うことができます。

副作用は硬膜外麻酔で重篤な合併症が起こることは稀ですが、副作用として以下のことが起こることがあります。しかし、しっかりとした症状や生体の変化（呼吸状態、血圧、心拍数、意識レベル、麻酔範囲）を厳重にモニタし、早期発見に努め、迅速に対処します。

- ・チューブ挿入部位の痛み
- ・一時的低血圧：体位変換、輸液にて回復します
- ・硬膜穿刺後の頭痛：1週間程度で回復します
- ・非常に稀な合併症：一時的ふるえ、局所麻酔薬中毒、硬膜外血腫、硬膜外膿瘍、呼吸困難

【産後の母子の安全】

お母さんをご出産後、**血圧測定や酸素飽和度測定**を開始し、安全を確認します。通常は産後2時間程度行いますが、状況に応じて半日から1日程度の観察をします。

赤ちゃんは出生直後より**酸素飽和度モニタ**をつけます。酸素飽和度の観察は、生後1～2日間継続します。

【母子同室と赤ちゃんのお預かり】

赤ちゃんと一緒に過ごしたい方は母子同室も出来ます。逆にのんびりしたい方や、母子同室をされていて途中で疲れてしまったときはいつでもお預かりいたします。

日中は母子同室、夜間だけお預かりといった場合も対応可能です。

変更もいつでもできますのでその都度ご希望を遠慮なくお伝えてください。



【ハイリスク妊娠の考え方】

当院ではハイリスク妊娠でない方の妊娠・分娩を取り扱っております。以下の方は、当院におけるハイリスク妊婦として慎重な対応が必要と考えています。

- ・ 大きな子宮筋腫や卵巣腫瘍がある方
- ・ 双子などの多胎妊娠
- ・ 生命または全身状態に関わるようなアレルギーのある方
- ・ 活動性の高い気管支喘息（内服や吸入を常用している方など）、糖尿病でインスリン治療されている方
- ・ 精神科的な疾患がある方
- ・ 感染症キャリアの方（HIV、B型肝炎、C型肝炎等）。血栓症の既往がある方や、炎症性腸疾患の方
- ・ これまでの妊娠・出産の際に大きな異常があった方。（重症の妊娠高血圧、常位胎盤早期剥離だった方など）
- ・ 宗教・信条などの理由で、医学的に必要と思われる輸血・その他の処置を拒む方。
- ・ 出産に影響するような心臓疾患のある方
- ・ 喫煙をやめられない方。受動喫煙が激しい方。

【個室】

産後入院は、トイレとシャワー付き個室です。ご主人様が宿泊可能な部屋もあります。



【食事】

当院専属シェフによる産後の体を癒やしてくれるおいしい食事をお召し上がりください。

院内のサイネージにてこれまでの食事を閲覧することができます。





【安全への配慮】

お母さんと赤ちゃんの生命を守るのがクリニックの使命です。安全には、考えうる限りの最大限の配慮をします。

医療安全

当院では緊急事態にも迅速に対応して皆様の安全を守ります。

1. 24 時間 365 日緊急帝王切開に対応します。
2. 医療スタッフを十分に配置し、緊急時に備えたプロトコールを作成します。
3. 最新の医療機器と設備を完備し、嚴重なモニタにより危険を早期に察知します。
4. 最新の知見に基づくガイドラインに沿った正確な診断と治療を実践します。
5. ハイリスク妊娠など高次医療機関への紹介や診療依頼が必要な場合は速やかに行います。
6. 名古屋市周産期医療ネットワークに加入すると同時に近隣の高次医療機関としっかり連携し、新生児の緊急搬送や母体搬送にも、24 時間・365 日迅速に対応します。連携病院は、名古屋市立大学病院、名古屋第二赤十字病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋市立西部医療センターなどです。

【災害への安全】

建物は最新の設備で自然災害に備えます。十分な耐震性を持ち、蓄電池を備え、災害時のインフラ切断に対してもお母さんと赤ちゃんを守ります。

【防犯】

多数の防犯カメラ、セキュリティシステムによりお母さんと赤ちゃんを守ります。

